

投稿論文

日 本 語 教 育

——実習および教案指導(2)——

平 田 圭 子

日本語教育実習及び、国際文化研究Ⅰ（日本語教育現地実習）において、実習生に作成するよう指導している教案には、大きく分けて2種類ある。授業全体の流れ（アウトライン）や、教師の目標・学習者の目標、予想される問題点・解決策などを記した略案と、実際の授業での板書計画、教師の発話・行動、学習者の発話・行動などを詳細に記した細案の二つである。

今回は、実習生たちが平成20年度国際文化研究Ⅰ（日本語教育現地実習）の実習時に作成した細案の中から、初級のリーディングとリスニングの効果的な指導法について考察していくこととする。

今回、国際文化研究Ⅰで学生たちが実施したリーディングの材料は、The Japan Times『初級日本語 げんき』から、読み書き編 第6課「私の好きなレストラン」（pp. 280）を使用した。ここからは実習生が実際に作成した細案を見ながら考察していく。

次ページに提示しているものは、実習生Bが作成した教案である。本時の項目の教材を、それぞれの学習者に読ませた後、この教材に元々用意してある設問を解くよう、ここまで10分間の予定で構成している。初級でのリーディングの指導は、そのクラス内のレベルや規模によって時間配分が非常に難しい。また、どのくらいの長さの文章を読ませていくのかということも、きちんと考えておかなければ、授業の枠に収まらないのである。これを踏まえて、実習生Bの細案から、改善を必要とする部分を指導した。

まず、実習生Bはリーディング教材を学習者に読むよう指示をだしている。初級に限らず、学習者にリーディングをさせる場合、必ず必要となってくるのは、教師によるモデルである。学習者の立場からすると、この部分はリスニングになる。目的は、学習者に読ませる前に、教師自身が教材を読み、正しい発音やアクセント、イントネーション等を確認させるためである。今回の教材は特に外来語が多いため、英語の発音のまま読んでしまわないよう、注意が必要である。学習者の様子を観察し、読むスピードや回数も調節することが大切だ。

学習者に読ませる際には、個人を指名して読んでもらう方法と、全体で読ませる

時間	板書計画	教師の活動	教師の発話	学習者の発話・活動
練習② 0-10	<div>拡大版</div>	<p>“私の好きなレストラン”の拡大版を貼る</p>	<p>「○○です。どうぞよろしく。」 「見てください。」 「読んでください。」 「S1さん」 「S2さん」 「S3さん」 「S4さん」 「S5さん」 「S6さん」 ・ ・ ・ ・ ・ ・</p>	<p>「どうぞよろしく。」 S1「私の好きなレストラン」 S2「私の好きなレストランは、イタリアのマンジャーレです。」 S3「駅の南口を出て、右へ五分ぐらいです。」 S4「小さいレストランです。」 S5「シェフはイタリア人のアントニオさんです。」 S6「アントニオさんはとてもおもしろい人です。」 S1「私はよくマンジャーレに行きます。」 S2「マンジャーレでワインを飲んで、ピザを食べます。」 S3「アイスクリームもおいしいです。」 S4「ここでたくさん食べます。」 S5「料理は安いですから。」 S6「外国人もたくさん来ます。」</p>
	<div>地図</div> <div>拡大版</div>	<p>地図を貼る</p>	<p>「はい、いいです。」 「S1さん、マンジャーレはどこですか？」 「はい、いいです。」</p>	<p>「eです。」</p>
	<p>マンジャーレは、レストランです。</p> <div></div>	<p>右：大きい 左：小さい 正解を貼る</p>	<p>「どっちですか？」 「S2さん、マンジャーレは、……」 「はい、いいです。」 「マンジャーレは、ちいさいレストランです。」</p>	<p>「ちいさい」</p>
		<p>右：高い 左：安い</p>	<p>「どっちですか？」 「S3さん、マンジャーレは、……」 「はい、いいです。」</p>	<p>「安い」</p>

			「マンジャーレの料理は 安いレストランです。」	
	右：おもしろい 左： つまらない		「どっちですか？」 「S 4 さん、アントニオ さんは、……」 「はい、いいです。」 「アントニオさんは、お もしろい人です。」	「おもしろい人です。」
	右：食べます 左：食 べません		「どっちですか？」 「S 5 さん、マンジャー レでピザを……」 「はい、いいです。」 「マンジャーレでピザを 食べます。」	「食べます。」
	右：きます 左：きま せん		「どっちですか？」 「S 6 さん、マンジャー レに外国人が、……」 「はい、いいです。」 「マンジャーレに外国人 がきます。」	「きます。」

方法とがある。個人を指名して読んでもらう場合、誤用・発音訂正はしやすいが、指名された本人しか発話できないことになる。一方、全体で一斉発話させる場合は、全員が発話できるが、訂正がしにくい。さらに、学習者によっては、発話しなくてもいいだろうと思う学習者が出てくることが考えられるのである。それぞれ、どちらの方法を選んでも、デメリットを補うが必要になる。実習生Bは、個人を指名して読んでもらう方法で細案を書いているが、ひととおり学習者に読ませて、すぐに次の練習に移っている。ここではまず、指名されなかった学習者以外への確認をするために、指名された学習者が読んだ後に続いて全体で読むように指示する、または、指名された学習者が全文読み終わったあと、もう一度教師が文全体を通して読み、後に続いて全体で発話させるようにする。この時、注意しなければいけないのは、指名されなかった学習者の発話をしっかりモニターしておくことである。

この細案で、実習生Bは一文ずつ区切って指名した学習者に読ませているが、そもそも私たちの実生活で、このように一文ずつ読むということがあるだろうか。たとえば、作文やレポートの発表等でも、一文ずつ区切って読んだりすることはない。また、誰かが教材を読んでいるとき、その周りにとってはリスニングになるということ、そして、必然性と目的と効果をもう一度考えなければいけない。

さて、文中に出てくる新出語彙について、どのように指導するのか。実習生Bの細案では、新出語彙の導入が抜けてしまっている。実は、今回の教材の場合、「料理」

という語彙が新出となる。授業の流れを壊さずに新出語彙を導入するには、学習者が文全体の大意をつかめた頃、導入するのが望ましい。学習者が文章の中から「料理」という語彙をイメージできるあたりで導入をすれば、その後の授業もスムーズに流れ、場面設定も文中でなされている為である。ただし、学習者全員が理解できているか、意味確認を必ず行わなければならない。

リーディング教材全体の意味確認について、実習生BはQ&Aの形で確認をしている。比較的によく使われる手法ではあるが、少し教師の発話が多い。今回はリーディングの教材として用いているので、「必要な情報を読み取る」ことが目的である。全体で進めていくのも良いが、個々で問題を解かせ理解度を見る方法もある。答え合わせの際に、質問の仕方を変えてみるなど、工夫を凝らすのも良いだろう。

今回の実習では、指定されていた教材だったため、変更することはかなわなかったが、実際はできるだけ自分で教材を作成した方がよい。市販されているものや、教科書に付随されているものも、もちろん活用できるが、それぞれターゲットとしている学習者があり、その学習者向けに作られている。自分が教えている学習者が、必ずしもそのターゲットの枠にあてはまるとは限らないのである。そうすると、必然性を考えたとき、全くかけ離れたテーマになってしまう可能性があり、身近な話題ではないため、内容を読み取る事も難しくなる。

自作教材の場合、いくつか気をつけなければいけない事がある。まず、教師の視点や嗜好だけで判断しないことである。たとえば、最近のニュースや教師の得意分野、日本で流行しているもの、など。学習者の視点に立ってみると、それらが必ずしも興味深いものとは限らないのである。学習者のレベルによっては、教師が思っているより難しいものもたくさんあるだろう。また、その教材を使ってリーディングやリスニングを実施して、何を読み取って欲しいか、聞き取って欲しいのかが明確になっている必要がある。教材を読ませて、学習者が大意をつかんでくれるのなら良いのだが、そう上手くはいかない。こういった場合、設問自体の工夫やあらかじめ関連する事柄のプレタスクをさせておく等の準備をしておく事になる。

そして、リスニングやリーディングの後で、なにをするのが課題になってくる。ただ、「読む」だけ「聞く」だけでは、意味がない。さらに、先に述べたように、設問やプレタスクを解いているので、それよりも一段上のタスクを準備することになる。ここで、忘れがちなのは、このリーディングやリスニングの目的と必然性である。教材の内容に気を取られて、関連したタスクを考えることに必死になりすぎると、この授業を通して、学習者に何を学んで帰って欲しいのか、日常生活で活用できるシチュエーションを想定しているかということが抜けてしまうのである。

初級レベルの学習者に関しては、今回の実習生Bが作成しているものを例に挙げると、「ある場所についての情報を伝える」ことがテーマだが、ある場所の情報を

このような文章形式で他者に伝える場面が、こういった状況下で発生するのかを考え、その後のタスクに繋げていく。初級の場合は、クラスワークが中心となるだろう。中上級レベルの学習者に関しては、インフォーマルな表現が入り、ダイアログや教材の文章も長くなってくる。授業でリーディングやリスニングを取り入れる頻度も、初級よりは増えてくる。中上級レベルの学習者を指導する場合、リーディングまたはリスニングの後は、ディスカッションをさせたり、教材のテーマによっては、作文を書かせたりする。

リーディングとリスニングの指導について、実習生Bの細案から、今回は主に5点の改善点をあげた。初級レベルでリーディングとリスニングを取り入れる場合、その教材も大きく関わってくる。また、リスニングとリーディングは、音声教育や会話教育とも非常に深く関わっているため、今後の実習でも、色々と工夫を凝らして実施していきたい。

注

- (1) 平成20年度国際文化研究Ⅰ（日本語現地実習）では、実習生の担当箇所が第6課のまとめであった。授業の構成としてはリーディング、道を聞く／教える、まとめの練習となっており、実習生Bはリーディングを担当した。

参考文献

坂野永理、大野裕他（1999）『初級日本語 げんき』The Japan Times 344pp.